

は じ め に

この実践研究集録は、本年度における「理科定期研修」の研究成果をまとめたものであります。

「理科定期研修」は、当教育センターが実施している研修事業の一環であり、研修員と所員が一体となって行う共同研究の形態をとっております。すなわち、この研修は、小・中学校における「理科教育の実践的課題」を主題とし、いくつかのチームを組み、当教育センターの研究を基にしながら、授業研究を通して問題点を究明しようという立場をとっています。これらの研究を通して、指導内容に検討を加え、自然の事物・現象の教材性を明らかにすると同時に、理科の学習指導改善の方途を探ろうとするものであります。

御承知のように、学習指導要領の改訂に伴い、中学校は55年度までその移行期間になっています。この期間は、指導内容については移行措置の特例に基づくとともに、生徒の直接経験を大切に、生徒自身が自然の事象に直接接する活動を従来以上に重視するという新指導要領の趣旨を生かして指導に当たらなければなりません。

したがって、この研究をすすめるに当たっては、この新指導要領の趣旨を生かすよう、それぞれの指導内容や教材について検討すると同時に、それにかゝる生徒の実態をとらえることに努めました。その上に立って実践上の問題点を洗い出し、問題の解決のための実践を重ねています。

今回の中学校関係の2テーマはいずれも、2年間の継続研究であり、ここに収めた論文は昨年度の研究を踏まえて授業の実践を重ね、生徒の直接経験を生かした指導のあり方を検討しまとめたものであります。

なお、これらの研究は紙面の都合で、その意とするところをじゅうぶん尽し得ないものも多く、また内容について至らない点多々あると思います。率直な御批判と御指導をいただければ幸いです。

おわりに、多忙な業務のなか、この研修に参加し終始熱心に研さんされた研修員の方々の努力と熱意に対して深く敬意を表します。さらに、研修員所属校の校長先生はじめ諸先生方からいただいた御支援と御協力に対し、心から御礼申し上げます。

昭和55年1月20日

新潟県立教育センター所長 風 巻 友 重